

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.6
1 音環境				3.4	0.15		-		3.4
1.1 室内騒音レベル		生物系実験室: 39.94dB		4.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.30		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.30		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20		-		
1.3 吸音				3.0	0.20		-		
2 温熱環境				3.0	0.35		-		3.0
2.1 室温制御				3.8	0.50		-		
1 室温				3.0	0.60		-		
2 外皮性能		外部サッシ: U=3.81(W/m ² K)、外壁: 0.48(W/m ² K)		5.0	0.40		-		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.6	0.25		-		3.6
3.1 昼光利用				3.0	0.30		-		
1 昼光率				3.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度		実習室・実験室500lx、包装室700lxを確保		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		明るさセンサー・人感センサーを採用		5.0	0.25		-		
4 空気質環境				4.6	0.25		-		4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		MSDSシートなどから低VOCとしていることが示されたものを使用		5.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		各種排気口から6m以上の離隔を確保		5.0	0.33		-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御		建物全体全面禁煙		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		4.1
1 機能性				4.3	0.40		-		4.3
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化誘導基準を満たす計画		4.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30		-		
1 広さ感・景観				3.0	0.50	3.0	-		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		建物コンセプトに応じた内装計画		5.0	0.50		-		
1.3 維持管理				5.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		清掃しやすい内装仕上げの選定		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		トイレに清掃用流しを設置、屋上に吊環の設置		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				4.0	0.30		-		4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.6	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%以上の耐震性を有する。		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外や局所排気ダクトにガルバリウム鋼板を使用、スモークハウス排気にステンレス鋼板使用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水: 塩ビライニング鋼管(B) 給湯: 一般配管用ステンレス鋼管(C) 汚水雑排: 硬質塩化ビニル管(B)		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.4	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の利用、井水利用。		5.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高 1階=4.3m、2階=4.1m、3階=3.9m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	評価基準に即し、1階の壁長さ比率が0.1以上0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	1階実習室天井内のISS化、2.3階実験室は直天井	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	1階実習室天井内のISS化、2.3階実験室は直天井	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	1階実習室天井内のISS化、2.3階実験室は直天井	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配線用に配管、ラックを設置。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	1階実習室天井内のISS化、2.3階実験室は直天井とし、仕上げ材を解体することなく機器更新が可能。また、更新時は室毎に更新することにより、建物機能を維持しつつ更新が可能。	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	将来性・更新性を見込んだ屋上設備置場の計画	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.4
1	生物環境の保全と創出	土の採掘量の削減	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	周辺建物と調和した外装計画	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	建物東面にアグリアゴラ(植栽広場)を計画	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.91	3.8	0.20	-	-	3.8
2	自然エネルギー利用	室外機井水散水利用。自然換気利用	5.0	0.10	-	-	5.0
3	設備システムの高効率化	BEI=非住宅 0.49 住宅(専用部) -	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要なエネルギーを計量	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値を把握し、建築主に提示している。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1	節水	節水型器具を利用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	室外機散水に井水を利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生砕石、ビニル床材、ロックウール吸音板	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨乾式構法による躯体と仕上げの分離	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	指定化学物質を含まない接着剤の採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率62%	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	近くの気象台データより風向風速卓越風の風環境を把握して設計	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	敷地内リサイクルセンターでの分別処理	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告の照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	